

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 よい子の広場福祉会	事業所名	看護小規模多機能 書写ひまわりホーム
所在地	(〒 671 - 2201) 姫路市書写 634-50		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

令和7年度は併設する訪問看護ステーション事業の拡充を目標に掲げました。新たに訪問看護経験者が加わったことで、看護師同士の専門知識を更に高め合うことに注力しました。看多機での看護師業務の有効配置を行うことはもちろんのこと、看護師と介護士の連携や業務を整理することで職種を超えた柔軟かつ積極的な対応をする専門性の高いチームの構築と運営に努めています。目標達成こそが「業務の質」と「職員の質」の向上になると信じ、チーム協働でその人に合った支え方を柔軟に考え、介護・医療を一体的に提供し、地域に信頼される施設を目指します。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2026 年 2 月 6 日	従業者等自己評価 実施人数	(14) 人	※管理者を含む
----------------	-------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2026 年 3 月 18 日	出席人数 (合計)	(7) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (3) 人 <input type="checkbox"/> 市町村職員 () 人 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1) 人 <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (1) 人 <input type="checkbox"/> 利用者 () 人 <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (1) 人 <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (1) 人 <input type="checkbox"/> その他 () 人			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	職員主体の研修会を継続しつつ、外部研修にも積極的に参加し、スキルアップを目指す。事例検討を用いて、より具体的に考える機会を作り、実践力を高めたい。	年度初めに個人目標を掲げ、会議で発表。自分なり目標達成の具体的手段を決め実施内容と振り返る機会を設けた。それと同時に会議時には職員（介護士・看護師）講師による研修を継続して行いスキルアップを目指した。	個人に於いては自分の弱み強みを知ること、互いに認め補完するチームはできつつある。毎日変わりつつある利用者の情報・状態をキャッチし、分析し、根拠に基づいて方向性を同じくしたサービスを今後も目指したい。	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	利用者個々のニーズに柔軟に対応できるよう、利用者のサービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、対応できるチーム作りに努める。	会議、申し送り時の内容をより内容のあるものへ、介護士、看護師が垣根を越えてその人を支えるプロとしての発言、発信を積極的に行える環境を整えた。それにより早期に利用者の対応ができた。	看多機プランに沿って、具体的なサービス内容を共に考え提供するには、多角面からの情報の整理、医療からの意見等総合してモニタリングをすることで、その人をより知る努力と支援方法を模索する姿勢が高まった。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	日頃から病院、主治医等関係各所と当たり前に連絡できる関係作りに注力する。また職員による気付き力を高め、それを反映できる看護師との体制強化も行う。	訪問看護経験者の看護師が入職してきたことで、より主治医や病院との関係作りに於いてより強固になり、すぐさま連絡できる関係性ができている。	多職種、関係機関との良好な関係が事業所の信頼に繋がっていると感じる。専門性をより高めるため、介護士・看護師内でのレベルの均一化を図る必要があると感じる。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	医療ニーズに応えるだけの知識の習得と、看護師主体による勉強家の機会を作り、全体的なスキルアップを図る。	看護師と介護士が思いやケアについて積極的に意見交換が行え、専門的分野からの気づきがあり、スキルアップに繋がっていると感じる。医療ニーズに応えるだけの実績を積んでいく必要がある。	医療ニーズの高い利用者様を積極的に受け入れることで、社会的な使命を果たしたいという意識を持ち、常に知識の習得に努めたい。

<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)</p>	<p>個々の課題を抽出し、レベルアップを目指す強い意志と積極的な取り組みをチームで行う。会議等で振り返ることで達成度を確認し合う。</p>	<p>サービスを受けた利用者の満足度を高め、在宅生活が少しでも長く継続出来るよう計画を立てることで、達成するために具体的に何をすべきかを共に考えられるチームへ変わりつつある。その人に何が必要かを言語化することで整理され、小さな成功体験が喜びとなっている。</p>	<p>今後も「看護小規模多機能」の看護に特化したサービスを提供できる施設作りを行う。その中で、利用者主体を追求し、その人を支えるには、具体的な内容やアプローチを柔軟かつ、専門的に行えるよう職員の質（人間性）も高める必要がある。</p>
---------------------------------	---	---	---

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<p>個人に於いては自分の弱み強みを知ること、互いに認め補完するチームはできつつある。毎日変わりつつある利用者の情報・状態をキャッチし、分析し、根拠に基づいて方向性を同じくしたサービスを今後も目指す必要あり。医療関連の必要知識については訪問看護経験者が中心となり、レベルの底上げをしている。また介護・看護が垣根を越えた協力体制は取れているため、今後はより実績を積んでいくことが求められる。</p>	<p>訪問看護ステーション事業の定着と運営にも力を入れ、医療を必要とする利用者を受け入れることで、経験を積み、更には看多機の本来の役割が果たせるように事業を展開していくことが必要。再度ケアの理念構築に力を入れる。</p>
<p>Ⅱ. サービス提供等の評価</p>	<p>看多機プランに沿って、具体的なサービス内容を共に考え提供するには、多角面からの情報の整理、医療からの意見等総合してモニタリングをすることで、その人をより知る努力と支援方法を模索する姿勢が高まった。</p>	<p>利用者個々のニーズに柔軟に対応できるよう、利用者のサービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、対応できるチーム作りに今後も努める。</p>
<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)</p>	<p>多職種、関係機関との良好な関係が事業所の信頼に繋がっていると感じる。専門性をより高めるため、介護士・看護師内でのレベルの均一化を図る必要があると感じる。</p>	<p>病院、主治医等関係各所と当たり前に連絡できる関係作りができてきた今だからこそ、医療ニーズの高い利用者を積極的に受け入れることで介護と看護の力を高め合いたい。</p>

	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)	医療ニーズの高い利用者様を積極的に受け入れることで、社会的な使命を果たす。	医療ニーズに応えるだけの知識の習得と、看護師主体による勉強家の機会を作り、全体的なスキルアップを図る。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42~44)		専門的知識を深め、互いに高められるチーム作りを行うため、再度自事業所、職員の行動全般に検証し改善する必要が求められる。	個々の課題を抽出し、レベルアップを目指す強い意志と積極的な取り組みをチームで行う。会議等で振り返ることで達成度を確認し合う。

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		○			医療ニーズの方の受け入れ等多種多様な利用者が多く大変であると思う。基本的に立ち返り、理念に沿って方向性を統一し取り組むことが必要と考える。	✓ ①~⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①~⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「およそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		[具体的な状況・取組内容] 毎年4月に実施している施設の方針説明会や会議で看多機としての役割や目標を掲げ、在宅生活を支えるプロとしてアセスメントの強化に努め、個々に応じたサービスを皆で考える機会を作り理念の浸透、方向性を統一している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○			医療と介護がしっかりと役割を果たし、看護小規模多機能事業所としての特性を發揮されることを望む。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		○			人育ては難しいが、個々に応じた計画を立て更にスキルアップ出来る人材育成を期待する。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		○			まだ達成していない課題について「これでいい」と思うことなく、限りなく向上心を落ち続けて欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		○			勤務形態が複雑な中、どんな些細な情報も「聞いていない」と言わないようしっかりと伝達をしてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		○			せっかくの機会を頂いている。人生の先輩からの意見も反映して頂けると有難い。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		○			異動は仕方ないにしても離職者が少ないことから、働きやすい職場作りに努められていると感じる。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のため

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		ることに努めている。悩みや思いを発する機会を個別で作成、風通しの良い環境を目指している。					の支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている		○			情報管理は徹底して欲しい。外部に漏洩するニュースを聞く度に、個人情報の管理の大切さを感じる。	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 利用者の変化については申し送りにて即座に対応している。モレがない様、申し送りノートを活用し、確実に伝達できる体制としている。今後も継続する。					
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている		○			原因分析と対策は大切である。今年度は大きな事故があった。今後事故が発生しないよう注力して頂きたい。	✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 事故が起きた後は、事故報告書を用い迅速に原因分析と対策を行う。事故対策を全員で行うことで原因分析と振り返りを徹底し事故防止に努めている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		○			災害訓練には真摯に取り組んで欲しい。利用者の命を守る砦として期待している。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます。
<p>II サービス提供等の評価</p> <p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</p> <p>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</p> <p>① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施</p>							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○			看護に手厚い事業所として周囲からの期待は大きい。夜間対応等、負担は多いが頑張っている。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります。

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○			介護職、看護職双方が互いの業務内容を認知し、協働で行うことは難しいと思うが期待している。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○			家族の困っていることを整理し、信頼関係を築くことは大変だと思うが、利用者だけでなく家族を支援し、安心感を持って利用することができる事業所を目指して欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		○			法人内で専門的な理学療法士が行き来し合える関係は素晴らしい。専門的知識を發揮し事業所の職員の知識アップに繋げてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		○			<p>専門性の高い分野であり素人が理解しにくい場面が多く見られると想像できる。介護をする人に於いて、見通しができることで安心できると思う。</p>	<p>✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です</p>
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		○			<p>ケアマネの能力向上に努め、効率の良い業務遂行力を身につけることが必要である。</p>	<p>✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している		○			信頼関係を築けているなら安心である。様々な背景や課題があるだろうが、最善を尽くして欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		○			利用者の変化に素早く気付き、適切に関係多職種と連携できる関係作りを今後も継続して欲しい。病院との連携が心強い。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		○			互いの専門性を理解して、共同作業が円滑に進むよう取り組みを進めて欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		○			チームケアの精神を大切にしながら、利用者の対応を最大限に発揮できるチームを作って欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている		○			看護師とはいえスキルも違えば人も違う。今後も研修等も活用しスキルアップに励んで頂きたい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			今後も誠実な対応をして頂きたい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			日頃から家族様との関係を良好にしておくことは簡単の様で難しいがこれが1番その人を支える上で重要だ。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			新しい情報を常に取り入れる姿勢をこれからも続けて欲しい。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 新しい医療器具を使用する時は看護師から直接説明することで理解を深める努力をしている。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		○			看護小規模であることの強みを発揮し、きめ細やかな対応で利用者及び家族の満足度を上げて欲しい。	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 利用者の主訴には絶えず耳を傾ける姿勢を徹底している。家族と本人の要望のズレが発生した場合の調整役としての役割に力を発揮出来るよう努めたい。					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができる		○			可能な限り迅速に対応してもらいたいことを期待している。状態の変化については早期に気づき、予後対応の説明をお願いしたい。	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 自宅の状況を的確に把握することで、在宅生活の継続の判断ができるため、多くの職員の多角面からの情報を確認するようにしている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		○			<p>終末期は家族の精神的なケアも必要とされる。本人、家族にしっかり寄り添う姿勢を期待している。</p>	<p>✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」</p>
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		○			<p>カンファレンス等には可能な限り参加し、情報交換をして欲しい。</p>	<p>✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます</p>
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		○			<p>医師に連絡をする関係が出来ていれば安心。急に亡くなるケースもある為、色々な事例を想定し対応策を考えて頂きたい。</p>	<p>✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します</p> <p>✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておく</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
						ことが重要です	
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている		○			救急車の搬送先が決まらないケースも多いと聞く。看護師は大変と思うが適切な対応を望む。	✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 協力病院は確保している。ただ、主治医が夜間帯すべて対応できる病院ばかりでない。急変時に出来る限り可能な体制作りの構築に努めている。					
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている		○			地域包括支援センターの方からの地域の情報や病院、集会等教えてもらい、自分達も豊かな情報量となる。 せっかくな機会を有意義に活用してほしい。	✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
		[具体的な状況・取組内容] 運営推進会議には地域包括支援センターのケアマネにも参加いただき、地域との繋がりを継続して保つことが出来るよう配慮している。またその中で地域の課題や傾向など情報を発信してもらえることで、地域への参加やインフォーマル等社会資源を学ぶ機会にもなっている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている		○			会議の内容を全職員が共有していなければ意味が無い。内容を把握できる体制を作ることが肝要であると言える。	✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 過去の議事録はファイリングしており閲覧可能な状態にしている。会議や昼礼で情報発信しているが、職員が手にして見ている場面は少ない。					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている		○			今年度は地域の夏祭りの救護室に参加していただいた。今後も地域に向けて積極的に参加してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
		[具体的な状況・取組内容] 主に「ひまわり日記」という媒体を使用して、施設の取り組み内容については発信している。地域の夏祭りなどの救護室にはボランティアで参加している。					
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している			○		まだ実施件数は少ないようだが、更なる活動を期待する。	✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください
		[具体的な状況・取組内容] 訪問看護ステーションの利用者獲得に努めている。看多機との業務と調整をしながら積極的に活動する姿勢。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
							<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている			○		<p>常時、吸引を必要とする利用者を受け入れる事業所として体制が整えられることを望む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている				○	<p>難しいと思うがいろいろなケースに対応し、地域住民の期待に応えて頂きたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		○			<p>いろいろなケースに対応し、地域住民の期待に応えて頂きたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している			○		<p>地域包括支援センター業務の受託により、身近に学ぶ環境が整ったと思われる。是非、そのメリットを生かして欲しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している		○			<p>特定の集合住宅等に限定する意味についてはわからないが、利用者の困窮具合が基準となっている現状は適切であろうと思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている			○		<p>地域にも気づきとしてとらえることが出来、互いに成長するための関係性を望んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがな

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	おおよそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
							い場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		○			それは素晴らしい取り組みである。紙パンツ類も種類が多く何を選んでよいかわからない。尿測をしながらじっくりと選定してくれるとは有難い。コスト削減にもなり得るだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ②. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 利用することで効果が得られている利用者は増えている。また具体的なサービス内容をプランに沿って意識が高まりつつある。	早期にすべての利用者 に達成されるよう頑張っ て頂きたい。	✓ 「計画目標の達成」について、評価 します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ②. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 看護師が家族に寄り添って一緒に考えることが安心に繋がっている。	介護に加えて医療面の サポートが受けられるこ とは心強い限りである。看 護小規模多機能に対する 期待は大きい。	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用 者およびその家族等に対し、サービ スの提供により実現された「医療が 必要な状況下においての、在宅での 療養生活の継続に対する安心感」に ついて、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>5. 看取りの希望者はいない</p> <p>[具体的な状況・取組内容] 看取りを実施した利用者および家族の安心感が得られているが、実績は少ない。</p>	<p>これまでの実績が少ないとのことであるが、他の様々な項目も踏まえ、大いに期待している。</p>	<p>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>